

授業カブラッシュアップ研修会①

今年度から、中学校でも学習指導要領が完全実施となり、「児童・生徒に基礎的な知識や技能を習得させるとともに、それらを活用して、思考力・判断力・表現力等を育成する」ことが重視されました。そのために、言語活動の充実と学習評価の在り方に視点を置いた授業改善が必要になっています。今年度の授業カブラッシュアップ研修会では、この2点を重点として、授業提案等を行いました。



小学校 家庭科

家庭生活での実践化に結びつく指導展開はどうあればよいか

(1) 提案授業

「工夫して生活に生かそう」～めざせ、エコ名人！～

授業者：奥州市立真城小学校 教諭 及川直美

助言者：県南教育事務所 指導主事 佐々木晋

★言語活動の充実した授業

- ・リメイク作品から、問題点をグループで具体的にを見つけ、家庭科の用語を使って表現しています。
- ・授業者が子どもの実態を的確に把握し、子どもの感想やこれまでの失敗から改善点を見つけていけるように、授業展開を工夫しています。



★学校と家庭の連携

- ・「学校は練習、家庭は本番」の意識が大切です。
- ・内容を意図的に組み替え、子ども達の気付きを大切にし、家庭生活に活用していけるようにしています。
- ・布等の材料を家庭から持ち寄ることにより、家族との話し合いがもてるような工夫をしています。

★活用するための5つのポイント

- ①知識・技能が身に付いていること
- ②思考に必要なヒントや筋道を与えていること
- ③思考の焦点が絞られていること
- ④思考を組み立てていること
- ⑤全員が自分のこととして考えていること

(2) 講義

「家庭科指導の進め方」

講師：県南教育事務所 指導主事 佐々木晋

★学習指導要領の要点

- ・学習したことをもとに家庭生活に生かし、継続的に実践できるようにすることが大切です。

★家庭科の授業の見直し

- ・家庭生活での実践化に結びつく指導展開を工夫します。そのために、学習のまとめを「今までは」「今日の授業で」「これからは」の3段階で押さえます。
- ・生きる力を育成するためには、人や物とかかわる力が必要となってきます。

中学校 社会科

基礎的・基本的な知識技能を修得し、社会的な見方や考え方を身につける生徒が育つ社会科授業の展開
— 調べたことをもとに事象の意味や意義について考える言語活動を通して —

(1) 提案授業

「世界の諸地域 世界に大きな影響力をもつ北アメリカ」

授業者：一関市立藤沢中学校 教諭 菊池朋嗣

助言者：岩手県教育委員会 主任指導主事 飯岡竜太郎

★言語活動を充実させる手立て

- ・言語活動で生徒にどのような能力を身に付けさせるのか、言語活動の目的を明確にします。
- ・事実を調べる活動をしっかりと保障し、調べたことをもとに社会的事象の意味や意義を考える言語活動を位置付けることが大切となります。
- ・一つ一つの資料から確実に読み取らせるために、1年生の段階では、資料活用の技能を身に付けさせることが特に重要となります。
- ・地図や資料を根拠にして、解釈・説明・論述をさせることにより、社会科としての表現力を育てます。

★学習評価の留意点

- ①指導したことを、学習の成果として評価することが基本です。
- ②「知識の構造図」を作成することにより、毎時間の評価の観点を明確にします。また、一単位時間で、4観点全てを評価しようとしません。
- ③評価の結果は生徒への指導に還元したり、教師自身が授業を見つめ直したりすることにより授業改善に生かします。

(2) 講義

講師：県南教育事務所 指導主事 田代 航

★「調べて考える」社会科授業の重視

- ・追究活動の出発点として、導入時に明確な問題意識をもてるような資料提示の工夫をしましょう。
- ・どの生徒にも確実に調べさせ、事実をとらえた上で、社会的事象の特色や関連、意味・意義を考えさせることが大切です。



★菊池先生手作りの追究資料→